

鼓鼻

に見えけるが、只おそろしく鬼の顔になりて、目は頂のかたにつき、顔の程鼻になりなどして、後
は坊の内の人にも見えす、こもり居て、年久しく有て、猶わづらはしく成て死にけり、かゝる病も
ある事にこそありけれ、

〔倭名類聚抄^三〕鼓鼻 野王案鼓音砂和名瀬岐美波奈鼻上炮也、

〔箋注倭名類聚抄^二〕按玉篇鼓莊加切、臚壯加切、並屬照母、砂色加切、屬審母、其音不同、此以砂音鼓
恐誤、醫心方云、鼻鼓和名案加波奈、今俗呼石榴鼻略中今本玉篇皮部云、鼓炮也、今作臚鼻部云、臚

鼻上炮也、與此所引合、按龍龕手鑑、鼓鼓同、

〔伊呂波字類抄^仁〕鼓鼻ニキミハナ鼻上炮也、鼓鼻同

〔增補下學集^{上二}〕鼓鼻ニキミハナ鼻上炮也、

〔倭訓栞^{中編九}〕ざくろばな 酒齏鼻をいふ、石榴鼻の義、形色をもてよべり、

〔醫心方^四〕治鼻鼓方第十六

病源論云、此由飲酒熱勢衝面、而遇風冷之氣相搏所生也、故令鼻面間生鼓、赤炮逆々然者是也、和名安加

奈波

〔病名彙解^七〕鼻臚サ 俗ニ云ザクロバナ、酒ヲ飲人ニ多クハ生ズル故ニ、又酒臚鼻ト云リ、入門ニ云、

鼻臚ハ準頭紅ナリ、甚シキトキハ紫黒、飲酒ニ因テ血熱肺ニ入、風寒ヲ被リ、鬱スルコト久シキト
キハ、血凝濁シテ色赤ク、或ハ飲ザルモノハ、肺風血熱ナリ、

〔瘍科秘錄^五〕酒鼓鼻

酒鼓鼻、酒客ニ多キ病ユエ名ヅク、又單ニ酒鼓トモ云ヒ、又鼓鼻トモ云フ、本邦ニテハザクロハナ
ト稱ス、治シ難キモノナリ、初ハ準頭小疹ヲ生ジテ赤ク、甚シキモノハ、疔瘡トシテ兩頰マデモ蔓
延シテ紫黒色ニ變ズ、鼻モ腫レテ一倍長大ニナリ、顔色ヲ變ズ、粉刺ニキヒヲ合病スルモノニテ、鼻ヲ強